

[症例概要]

| No. | 患者 | | 1日投与量 投与期間 | 副作用 |
|-----|----------|--|--------------------------|--|
| | 性・ 年齢 | 使用理由 (合併症) | | 経過及び処置 |
| 1 | 男 50代 | リンパ形質 細胞様リン パ腫・免疫 細胞腫 (ネフローゼ 症候群) | 480mg 31日間 ↓ 中止 | <p>スティーヴンス・ジョンソン症候群 膝骨折, 飲酒歴あり</p> <p>日付不明 ネフローゼ症候群に対してプレドニゾロン内服 (12.5mg/日) していた。</p> <p>投与開始日 原発性マクログロブリン血症及びリンパ形質細胞リンパ腫に対し, 本剤の投与を開始した。</p> <p>投与31日目 (投与中止日) 本剤は中止した。</p> <p>中止1日後 皮疹, 結膜充血を認めた。エピナスチン塩酸塩点眼を開始した。同日, 夜間に受診。スティーヴンス・ジョンソン症候群を認めた。体幹部及び頸部に斑状の発赤が散見され, 軽度の掻痒感を認めた。口内炎なし。体温: 36.1℃。オロパタジン塩酸塩 (用量不明) を開始した。</p> <p>中止3日後 皮疹の増悪, 発熱 (38.2℃) を認めた。両側結膜充血, 咽頭発赤, 上下口唇腫脹, 口腔内のアフタを認めた。体幹前後及び四肢に丘疹, 一部に癒合傾向, 体幹前面に水疱の破裂を認めた。プレドニゾロン内服 (30mg/日) に増量した。</p> <p>中止4日後 皮疹の増悪を認めた。全身に隆起性の紅斑, 丘疹が多発し, 一部target様で融合傾向を認めた。下肢に水疱の破膜を認めた。体幹中央はやや退色・平坦化し, 一部に水疱, びらんを認め, 紅斑にNikolsky現象を認めた (全身面積の10%)。圧痛を認めた。自発痛なし。龟头, 陰囊にびらんを認めた。結膜, 口唇の粘膜疹は変化なし。体温: 37.9℃。緊急入院し, プレドニゾロン静注 (60mg/日) を開始した。</p> <p>中止5日後 眼部に両側毛様充血様, 角膜輪部の免疫反応による軽度の白濁を認めた。角膜上皮障害, 前房内炎症なし。下肢に水疱の新生と自発痛を認めた。体温: 37.3℃。メチルプレドニゾロンコハク酸エステルナトリウム静注 (1000mg/日) を開始した。</p> <p>中止6日後 【皮膚生検】 左足背のtarget様紅斑より施行。表皮真皮境界部の液性変性を認めた。表皮内にリンパ球の浸潤と海綿状態及びその周囲に個細胞壊死を複数個認めた。真皮浅層の血管周囲性にリンパ球の浸潤を認めた。好酸球浸潤は明らかでない。多形紅斑を疑う。悪性所見なし。</p> <p>中止10日後 体幹中央の皮疹に退色及び癒合傾向を認めるものの, 顔面や上下肢の紅斑は拡大傾向であり, 水疱の新生を認めた。体温: 36.8℃。</p> <p>中止15日後 びらん, 紅斑の新生が続いたため, プレドニゾロン内服 (60mg/日) 及び免疫グロブリン静注療法を開始した。</p> <p>中止28日後 紅斑の新生は落ち着き, Nikolsky現象が陰性化したため, プレドニゾロン内服 (50mg/日) に減量した。</p> <p>中止28日後 皮膚の赤みの再燃はなく, プレドニゾロン内服 (30mg/日) に減量した。スティーヴンス・ジョンソン症候群は軽快した。</p> |

臨床検査値

| 検査項目 (単位) | 投与 19日前 | 投与 開始日 | 投与 17日目 | 中止 3日後 | 中止 4日後 | 中止 5日後 | 中止 6日後 | 中止 28日後 |
|----------------------------|------------|-----------|------------|-----------|-----------|-----------|-----------|------------|
| C-反応性蛋白 (mg/dL) | 0.01 | 0.02 | 0.01 | 0.77 | 2.01 | 1.39 | 0.85 | 0.05 |
| アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ (U/L) | 11 | 15 | 12 | 19 | 25 | 23 | 18 | 28 |
| アラニンアミノトランスフェラーゼ (U/L) | 25 | 16 | 10 | 13 | 19 | 18 | 21 | 49 |
| ヘモグロビン (g/dL) | 13.6 | 14.2 | 13.1 | 13.7 | 13.5 | 13.9 | 13.3 | 11.3 |
| 血小板数 (10 ⁴ /uL) | 30.1 | 38.4 | 33.6 | 28.4 | 23.2 | 26.9 | 26.7 | 27.3 |
| 血中アルカリホスファターゼ (U/L) | 44 | 46 | 40 | 42 | 43 | 38 | 40 | 71 |
| 血中クレアチニン (mg/dL) | 0.77 | 0.74 | 0.84 | 0.83 | 0.76 | 0.68 | 0.71 | 0.61 |

| | | | | | | | | |
|-----------------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 血中ビリルビン (mg/dL) | 0.6 | 0.8 | 1.1 | 0.9 | 0.5 | 0.5 | 0.5 | 0.8 |
| 血中乳酸脱水素酵素 (U/L) | 106 | 113 | 107 | 186 | 216 | 227 | 155 | 184 |
| 尿素窒素 (mg/dL) | 16 | 14 | 17 | 14 | 18 | 17 | 26 | 21 |
| 白血球数 (10 ³ /uL) | 7.2 | 7.5 | 9.2 | 10.0 | 9.0 | 9.4 | 10.5 | 10.2 |
| 好中球数 (10 ³ /uL) | 4.46 | 6.68 | 6.53 | 9.4 | 8.37 | 6.86 | 9.03 | 8.87 |
| リンパ球数 (10 ³ /uL) | 2.52 | 0.75 | 2.21 | 0.3 | 0.54 | 1.79 | 1.05 | 1.12 |
| 好酸球数 (10 ³ /uL) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

併用薬：プレドニゾロン， エソメプラゾールマグネシウム水和物， スルファメトキサゾール・トリメトプリム， エルデカルシトール

〔症例概要〕

| No. | 患者 | | 1日投与量 投与期間 | 副作用 |
|--------|----------|---------------------------|--------------------------|--|
| | 性・ 年齢 | 使用理由 (合併症) | | 経過及び処置 |
| 2 | 女 80代 | 原発性中枢 神経系リン パ腫 (なし) | 480mg 28日間 ↓ 中止 | <p>スティーヴンス・ジョンソン症候群 白内障， 急性虫垂炎</p> <p>投与開始日 再発又は難治性の中枢神経系原発リンパ腫 (原発巣:大脳 (右前頭葉), DLBCL (Non-GCB)) に対し, 本剤の投与を開始した。</p> <p>投与27日目 スティーヴンス・ジョンソン症候群 (Grade 3) を認めた。体幹部・両下腿に痒みを伴う皮疹を認めた。ピラスチンを開始した。</p> <p>投与28日目 (投与中止日) 本剤は中止した。</p> <p>中止3日後 体表面積の10%未満の病変, 体幹部, 両側大腿, 両側前腕に紅斑を認めた。粘膜疹なし。外用薬のベタメタゾン酪酸エステルプロピオン酸エステル, フェキシフェナジン塩酸塩 (120mg×2/日) を開始した。</p> <p>中止7日後 セフトリアキソンナトリウム水和物 (2000mg/日) を開始した。</p> <p>中止8日後 発熱 (38.8℃) を認め受診した。紅斑の拡大, 側腰部の一部水疱形成及び表皮剥離, 口腔粘膜疹, 口唇びらんを認めた。入院し, メチルプレドニゾロンコハク酸エステルナトリウム静注 (1000mg/日) を開始した。</p> <p>中止11日後 紅斑の退色傾向を認めた。体温: 36.4℃。プレドニゾロン内服 (30mg×2/日) を開始した</p> <p>中止15日後 紅斑の退色傾向を認めた。体温: 36.8℃。</p> <p>中止16日後 プレドニゾロン内服 (25mg×2/日) に減量した。</p> <p>中止18日後 紅斑の消退傾向, びらん部の上皮化を認めた。体温: 36.2℃。</p> <p>中止19日後 プレドニゾロン内服 (20mg×2/日) に減量した。</p> <p>中止21日後 プレドニゾロン内服 (15mg/日) に減量した。</p> <p>中止22日後 紅斑の改善を認めた。体温: 36.7℃。</p> <p>中止23日後 プレドニゾロン内服 (10mg/日) に減量した。</p> <p>中止25日後 プレドニゾロン内服 (5mg/日) に減量した。</p> <p>中止28日後 スティーヴンス・ジョンソン症候群は回復した。</p> |
| 併用薬：なし | | | | |